みんなの広場

東陵中学校区内地域貢献活動

地域と連携して郷土愛を育む

東陵中学校の１・２年生と地域学校協働活動推進員などが、校区内の駅や公園など7か所で清掃活動を実施しました。これは、日常生活の中にある公共交通機関（ＪＲ筑肥線）に関心を持ち、これまで過ごしてきた地域に感謝と誇りを持つ心の育成を目的としたものです。生徒は「高校へは毎日ＪＲで通うので、駅を大切に使いたい」と話しました。

↑地域の人たちと協力して、駅の清掃活動に取り組む生徒たち

うちどく推進講演会

科学絵本って楽しい！

絵本を通して本に親しみ、家族で取り組む『うちどく』の活動を広めるため、『うちどく推進講演会』が立花コミュニティセンターでありました。福音館書店で、雑誌『かがくのとも』の編集に長年携わった山形昌也さんが、科学絵本を読むことで、周りに自然や科学があふれていることを知り、科学に興味を持ってほしいと熱心に語りました。

↑科学絵本の企画から完成までを語る山形さん

ミステリ作家たちの横顔展

作家の手元をのぞき込むような作品が展示

佐賀市在住のミステリ作家 竹本健治さんの呼びかけに応じ、30 人の作家から『落描き』と称して、自由に描かれた作品が寄せられ、市民図書館で展示されました。これは、コロナ禍により、『ミステリ作家トークショー＆サイン会』が今年も中止されたことで開かれたものです。小説を構成するときのメモやイラストなど、貴重な作品が並びました。

↑一つ一つの作品の前で立ち止まり、見入る市民

シンポジウム『コロナ禍における地域日本語教室』

生活者としての外国人を支援するため

技能実習生などの外国人が、生活者として暮らす中で、困り事などを解決する手段の一つとなる『日本語教室』をテーマとしたシンポジウムがありました。文化庁地域日本語教育アドバイザーを務める３人の講師を招き、それぞれの取り組み事例、特に、コロナ禍におけるオンラインを活用した教室の在り方などについて紹介されました。

↑先進事例などを紹介する講師の西原鈴子さん（左から１人目）と髙柳香代さん（同２人目）、仙田武司さん

市文化祭合同芸能発表会

文化の秋を満喫する１日

市民センターで市文化祭『合同芸能発表会』がありました。市内の 16 団体が大正琴や民舞、フラダンスなどを披露しました。新型コロナウイルス感染症の影響により２年振りの開催。これまでの熱心な活動の成果が発表され、会場は大きな拍手に包まれました。子どもから高齢者まで、文化の秋を満喫する１日となりました。

結成 75 周年のときわ会の皆さん

↑フラダンスを披露するＹＫハワイアンフラの皆さん

↑２本のバチをしならせる幸之会（ゆきのかい）

伊万里トンテントン祭り

このようなときだからこそ、絆を深める

新型コロナウイルス感染症の影響により、昨年は荒御輿と団車を軽トラックに載せての巡幸のみでしたが、今年は、感染対策が取れたことから、２年振りにトンテントンの合戦が実施されました。残念ながら無観客での開催でしたが、「チョーサンヤ」と「アラヨーイトナ」の掛け声が町なかに響き渡り、秋の盛り上がりをみせてくれました。

暗闇を照らすちょうちんが幻想的な安幕の合戦

↑これまでと異なり、日中に行われた合戦のフィナーレを飾る『川落し』

市民啓発公開講座

これからの人生をどう生きていくか

西九州させぼ広域都市圏在宅医療・介護連携推進事業として市民啓発公開講座が、市民センターを含む７会場や個人とオンラインでつないで開催されました。看護師で僧侶の玉置妙憂（たまおきみょうゆう）さんが『地域で看取（みと）り看取（みと）られる』をテーマに、心穏やかに生きていくためのポイントなどを提案し、参加者は「人生を見つめ直そうと思った」と話しました。

↑経験談を交えながら、自分らしい暮らしを最後まで続ける方法やそれを支える側の心構えについて話す玉置さん

松浦町しめ縄切り（へその緒切り）

一年間の安泰に感謝

松浦町桃川と武雄市若木町との境の鹿路（ろくろ）峠で、『しめ縄切り』という伝統行事がありました。行事は桃川の４つの地区が交代で執り行っていて、今年の当番は上原地区。くじ引きで見事『切り人』を引き当てた松尾正昭さん（上原）は、途中に振る舞われる力水（御神酒）で奮起しながら、約 25 分かけて大きなしめ縄を切り、大役を果たしました。

↑しめ縄が切れた瞬間、大きな拍手と歓声が上がりました